

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972500730		
法人名	特定非営利活動法人 社会福祉研究会なかよし		
事業所名	グループホーム ねむのき		
所在地	栃木県大田原市北滝199-1		
自己評価作成日	平成22年10月22日	評価結果市町村受理日	平成22年12月12日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	平成22年11月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者のケアとあわせて、利用者家族の援助に力を入れています。今年度は地デジチューナーの無償給付の支援をしています。利用料については、大田原市内で一番低い料金となっています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは南面の大きな窓から広々とした田園風景が見られ、天井が高い上にリビングの高窓や明かり取り窓から日差しが入り込んで、明るく開放的である。リビングの南側には畳が敷かれてソファが置いてあるので、入居者はそちらでゆったりと過ごしている。広リビングは、ボランティアとの交流にも活用されている。玄関に運営推進会議録や他の資料が置かれていて、自由に閲覧できるようになっている。また、歌や踊りのボランティアの他、2つの傾聴ボランティア団体が毎月来て入居者が自由にお話ししたり、市の介護サービス相談員の訪問を受け入れる等、運営の開放化や透明性の確保に積極的に取り組んでいる。事業所の敷地内に管理者が住んでいるため、夜間の不測の事態への対応も迅速に行われ、日常的支援の際の職員の安心感にも繋がっている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームのモットーとして「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」「地域の人と」を掲げ、ケアに当たっている。月1回の職員会議で、理念を共有し、実践している。	4項目のモットーと「認知症を和らげるコツ10カ条」を室内に掲示すると共に、職員会議の際に職員全員で読み上げて日常の支援について常に振り返りを行っている。入居者を「せかさない」だけでなく、職員も「走らない・慌ただしく仕事をしない」ということを実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	利用者の知人や地域の人々が随時ホームを訪問している。また、地域の小学校との交流を持っている。小学生の登下校時にあいさつをしている。	毎年近隣の小学生(4年生)の訪問があり、一緒に歌を歌ったりして過ごし、後から届いた手紙や写真が室内に掲示されていた。管理者は小学校の評議員にもなっている。事業所が企画を担当して地域で「認知症サポーター養成講座」が開催され30数名が参加した。	防災・避難訓練に地域の支援をいただけるよう来年度に向けて取り組みが始まっているが、特に事業所近隣の住民(10数戸ある)の理解と協力を得るため、日常的な交流を図るための行事や企画等を工夫することを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	踊り、マジック等のボランティアの訪問があったときは、地域の高齢者にも参加していただいている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、真摯に受けとめサービスの向上に活かしている。	区長・民生委員・市担当職員・地域包括支援センター職員・入居者家族の出席を仰ぎ、2ヶ月毎に開催されている。会議で検討した結果「認知症サポーター養成講座」の開催に繋がった。家族からは入居者の重度化や入院時の対応への不安が述べられ、事業所としての方針が説明されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市との連携は密に取り組まれている。特に介護事業者連絡協議会とケアマネージャー連絡協議会が密に開催されている。	運営推進会議で市担当職員から様々な指導や情報提供を受けているほか、日常的にも必要に応じて連絡を取って連携を図っている。事業者とケアマネージャーの2つの会議が月に1~2回開催され、管理者が出席して意見交換を行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践している。	病院から入所した入居者が車いすのベルトを着用していたことがあったが、生活状況を確認の上ベルトを外し現在も問題なく過ごしている例があるなど、拘束的なケアはしていない。玄関は施錠せず、職員の見守りで対応している。事業所の前が公道で車の通りがあるため、日中は敷地の門扉は閉めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で虐待の防止を議題として、その防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者1名が福祉サービス利用援助の契約をしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解、納得を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が管理者や職員等に意見等を表せることができ、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置してあるが投書の例はない。入居者や家族からの希望や要望については職員が直接聞き取り、出来る限り実現するようにしている。希望や要望については申し送り簿に記載して共有化を図り、職員会議の中で検討して日常の支援に反映させている。	入居者や家族からの意見や希望等が少ない状況があるので、「事業所だより」の発行など事業所側から情報提供をすることで家族等の関心や理解を深める取り組みを行い、意見や希望の増加に繋げることを期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、職員の意見を運営に反映させている。	外部評価を受けるに当たっては、職員全員の意見を集約してまとめた。月1回の職員会議で職員の見を出してもらうほか、必要に応じて管理者が個別に話し合うようにしている。職員の意見で、入居者の担当制や月1～2回のイベントを企画することになり実践している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	運営者は、職員個々の努力や実績、勤務状態を把握している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は月に1回、職員と福祉について話し合いをし、法人以外の研修を受ける機会も確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大田原市介護事業者連絡協議会やケアマネージャー連絡協議会が密に開催されており、そこに参加することでサービスの質を向上させている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホーム利用前に本人および、家族等に面接(事前調査)をし、安心を確保している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	15の通りである。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努力している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」「地域の人と」をモットーにして仕事をしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	努力している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホーム利用前の地域の敬老会に参加するなど、支援に努めている。	以前住んでいた地域の友人と外出したり、行きつけの美容院や俳句会に出席する入居者がいる。また、職員が送迎して元の地域の敬老会に出席した入居者がいるなど、可能な限り以前の関係が継続出来るよう配慮している。家族の面会や外泊も頻度が高い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	18の通りである。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、継続的関わりを不要となるまで関係を保っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	職員は入居者の話をよく聞き、又は表情を見て思いをくみとり寄り添いたいと思い努力している。事業所は「傾聴ボランティア」や「介護サービス相談員」を積極的に受け入れている。いろいろな方法で入居者が安心して話せる環境を作ることにより、入居者の思いや意向を把握したいと考えている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	グループホームを利用する前に必ず調査をし、またケアの中でも、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努力している。毎月1回職員会議で話し合っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	25の通りである。	入居者の日々の様子を個人記録に書き留め、職員は必ず目を通して、月1回の職員会議で全職員で入居者1人1人の状態、意向、支援の方法を話し合っている。職員からの提案で更に注意深く見守るために担当性を取り入れた。毎月家族に入居者の様子を知らせたいと考えている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は実践へ反映されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	努力している。 毎月ボランティアの訪問がある。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホーム利用時にかかりつけ医を確認し、受診を支援している。	入居者全員のかかりつけ医が往診をしてくれている。薬も医師があらかじめ電話で様子を聞いて持参したり、医師が処方箋を薬局に届け薬局が薬を届けてくれる。歯科も訪問歯科診療を利用。診察内容は家族に職員が口頭で月1回伝えている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医に何でも相談している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努力している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	努力している。 運営推進会議の議題としたことがある。	家族の不安は常に「いつまでこのホームにいられるか」であるが、入居者の状況が運営規程・契約書等で記されている退去基準「常時医療行為が必要になった時」になっても、次の受け入れ先が決まるまでは医療ソーシャルワーカー等と連携して家族を支えたいと考えている。このことは、運営推進会議でも検討し、家族に周知している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間災害発生時の対応マニュアルがある。 応急手当の訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間災害発生時の対応マニュアルがある。消防訓練を実施している。	防災・避難訓練は年1回実施。しかし訓練は事業所内だけで避難も玄関までとなっている。地域の協力体制をつくるために、地域と消防署を交えた話し合いを運営推進会議で提案、準備を進めている。来年度には地域の協力を得て訓練を実施したいと考えている。近く自動火災警報装置とスプリンクラーを設置予定である。	地域の協力体制が今年度中にできることを期待したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に努めている。	入居者の人格の尊重やプライバシーの確保については職員採用時に研修を行い、守秘義務についても運営規程等に明記されている。職員会議でもプライドを傷つけないような支援方法について度々話し合われる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者は地域の敬老会、旅行、俳句会、美容院、お見舞い等に外出している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	37の通りである。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪については、利用者の希望を聞いた上で、職員が行ったり、利用者の望む店に行けるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付け等は利用者の意思を尊重し対応している。	食事は週2回利用している宅配の食材の内容で献立を決め、職員が作っている。入居者も食材を切ったり、盛りつけ、食器ふきを手伝っている。職員1人と入居者4、5人が2テーブルを囲み、当番のかけ声で全員が「いただきます」を言って食事を始め、全員が食べ終わるのを待って「ごちそうさまでした」をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分確保については午前と午後に1回お茶の時間を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをして気持ちよい排泄の支援に努めている。	排泄チェックをし、時間や入居者の動作や表情から排泄のタイミングをつかみ誘導している。トイレの回数の多い人や所要時間の長い人もいるため、居室にポータブルトイレを置いて、2カ所しかないトイレの混雑が緩和するよう工夫している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫をし、毎朝八ビリ体操を実施している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯については十分とはいえない。	一般住宅用の浴室浴槽が備えられ、2人の職員の介助で、週3回入浴をしている。入浴前には必ずバイタルチェックをして、体調不良で入浴できない時や入浴日でない日には清拭をしている。入浴拒否の人には順番を後回しすると気が変わって入浴してもらえることもあるので、声かけを工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息の支援に努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録表に、薬の副作用等の記入されている薬一覧表をファイルしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月1回以上のお楽しみ会を実施している。日常生活で各自できること(生活歴や力を活かした役割)をやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>家族の人や知人、地域の人々との外出は自由に行っている。グループホームの周辺には、ときどき出かけている。</p>	<p>家族や知人との外出は自由で、地域の行事や集まりへの参加の送迎を家族ができない時は支援している。日常は敷地内の散歩や気候の良い時はホーム周辺の公園まで車で出かけ、外気浴や散歩、お弁当を食べたりしている。遠出は花見や紅葉狩りなど年2回ほど実施されている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者によってお金を所持し、使えるように支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>できている。 1名の利用者であるが、自室に専用の電話を設置している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の生活空間について、いずれも家庭的な雰囲気を有している。</p>	<p>ホームは日当たりが良く、高窓があるため室内は明るい。南向きの窓からは遠くまで広がる田園風景が見渡せる。入居者は食堂を兼ねたリビングや畳の敷かれているリビングの一角で日中過ごしている。リビングではボランティアの踊りや近隣の小学生との交流も行われる。リビングの清掃は、濡れた床で入居者が転倒しないよう夜間に行われている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間は食堂兼ホールであるが、ゆっくり自由にできる場所として、畳コーナーを設けている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の居室は利用者の家族も自由に使用している。</p>	<p>各居室には洗面台、エアコン、クローゼット、木製ベッド、小タンスが備えられている。ベッドの横の壁には呼び出しボタンがあり、事務室と繋がっている。その他入居者の好みのものが持ち込まれ、机・椅子や冷蔵庫があったり、写真や花を飾ってある居室もあり、それぞれ心地よさそうな部屋になっている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部は安全で自立した生活が送れるようになっている。</p>		